

## 口は健康のもと Vol.209

### 虫歯治療の歴史① 古くは縄文時代から

虫歯治療の歴史は古く、現在わかっている資料から縄文時代には虫歯の治療が行われていたことが知られています。もっともその当時は今のように虫歯を除去して代わりの詰め物をその部分につめるという方法でなく、もっぱら悪くなった歯を抜くことしかできなかったようです。当時は当然のことながら今のように歯を抜いた後に入れ歯やインプラントを入れるという技術はありません。当然、歯を抜きっぱなしになりますので、その後の食事に不具合が生じていたことは明らかです。そのため何とか歯を抜かずに虫歯を治せないかということで様々な方法が試みられていました。例えば海外では口の中には虫歯ができる原因となる虫歯菌が本当にいると考えられていた時期があり、チヨスの実という劇薬を煎じたガスでその虫を口の中から追い出そうという信じられない方法が実際に行われていました。また日本では祈祷により虫歯を治そうということも行われていました。また以前日本で広まっていたお歯黒という習慣も日本独自の奇妙な虫歯対策の一つでした。江戸時代あたりから少しずつ変わってきましたが、現在の歯科治療に近い方法が行われるようになったのは明治時代に入ってからであり、今に通じるような歯科治療の歴史はそれほど長いものではありません。



奥羽大学歯学部附属病院

総合歯科 教授 山田嘉重